

アルケイア―記録・情報・歴史―

第一〇号 二〇一六年三月 一六三―一七〇頁
南山アーカイブズ

特集Ⅱ 「展示を利用した自校史教育の可能性」

聖霊中学校・高等学校の歴史と今

杉浦 泰也

聖霊高等学校・中学校

A History of Seirei High School : Past and Present

Holy Spirit Junior and Senior High School

SUGIURA Yasunari

Archeia: Documents, Information and History
No.10 March, 2016 pp.163-170
Nanzan Archives

本校の歴史と自校史教育

- (一) 名古屋聖霊学園としてのスタート
- (二) 三の丸旧校舎明け渡しの命令
- (三) 名古屋三の丸から瀬戸市への移転
- (四) 南山学園との法人合併

聖霊の現在

聖霊中学校・高等学校の歴史と今

杉浦泰也

本校の歴史と自校史教育

南山アーカイブズ記念シンポジウムに発表の機会をいただき感謝申し上げます。本日の私の肩書きはコメンテーターとなっておりますが、四人の先生方の報告に対してコメントするという立場ではなく、南山の名を冠とする他の単位とは少し異なる本校、聖霊中学高等学校として、「歴史と今」を報告させていただきます。

本校では中学高校とも、入学間もない頃に「修養会」、いわゆるオリエンテーション合宿を実施しております。この宿泊行事の中で、新入生らに本校の建学の精神と共に、本校の歴史を指導しております。今回、この行事で使用する画像を皆さんにご覧いただきながら、本校の歴史を紹介させていただきます。

(一) 名古屋聖霊学園としてのスタート

本校は一九四九年に名古屋城の南、中区三の丸の地に設立されました。設立母体である聖霊会は、神言会とともに聖アーノルド・ヤンセン氏が創設された修道会であり、後に学校法人名古屋聖霊学園となりますが、南山学園の他単位と共通の「源流」から誕生した学校といえます。

(二) 三の丸旧校舎明け渡し の命令

本校は旧日本軍の兵舎を利用していたが、二年目にしてGHQから「校舎明け渡し」の通達が届き、学校存亡の危機に見舞われます。生徒や教職員らによって聖母子像に熱心に祈りが捧げられ、初代校長S・マルチンヒルデラの行動力により校舎の継続使用が認められました。画像にも残されています。聖母子像は現在も校長室に安置されています。

(三) 名古屋三の丸から瀬戸市への移転

一九六〇年代には木造の校舎から鉄筋の校舎に建て替えられましたが、一九七〇年、名古屋聖霊短期大学の開学に併せ、中学高校の校舎を現在の瀬戸市へと全面移転することになりました。移転直後は厳しい学校運営が続きましたが、一九八一年に神言会員である大野寛二神父様が本校校長に赴任され、様々な変革や、新しい教育活動の創出が進められました。最大の改革は、



瀬戸移転後一時期は一クラスにまで減少した中学校の規模を、あえて高校収容数を減じて中学五クラスへ拡大するという大胆なものでした。平成の時代に入り中学五クラス・高校六クラスの安定した学校規模となり、現在も継続されています。このほかにも、中学卒業論文、イブ・マイ青春！、オーストラリア海外研修、全教職員による学校訪問など、聖霊の伝統として今も尚持続されている様々な教育活動がこの時期に一気に生み出されました。

(四) 南山学園との法人合併

一九九五年には名古屋聖霊学園と南山学園との法人合併が実現しました。一旦は南山短期大学と名古屋聖霊短期大学から女子大学を設立するという構想が発表されましたが、その後、法人同士の合併に発展し、全国的にも注目されました。合併以前より南山学園から校長職、理事職の派遣など学校経営上の支援を受けておりましたが、合併後、学校経営の面だけではなく、教育内容や教職員の人的交流、南山大学との高大連携などの面で、大きく発展しました。

聖霊の現在

生物学で「地理的隔離」という言葉がありますが、瀬戸市校外の丘での五十年近い歴史によって、学園の各単位とも微妙に異なる、そして少々厳しい道のりを歩み続けております。しかしながら近年では、生徒の学習への姿勢も向上し、優しい穏やかな生徒集団が形成され、カトリック系列の女子校らしい落ち着いた学校として評価をいた



だいています。

〈生徒から見える聖霊教育〉

本校創立時の言葉として、次のような内容が受け継がれています。「本校は、三位一体の神の愛である『聖霊』によって結ばれた共同体として、その名をいただいたキリスト教のミッションスクールです。」こうした創立以来大切になっている精神が、本校の一人ひとりの生徒に良く浸透し、本校生に接する人々にも確実に伝えられています。

① 学校公開日來校者の感想

- ・すれ違うたびに、元気に優しく、笑顔で声をかけてくださることに感動しました。
- ・生徒さんが明るく素直で好感の持てるお姉さんばかりでした。
- ・聖霊生に「あこがれ」を抱き、「わたしもそうになりたい」と強く思ったようです。
- ・我が娘も、聖霊生のような生徒に育って欲しいです。

② 芸術鑑賞「レ・ミゼラブル」キャストの皆さんの感想

『生徒さんたちが神様に対してとても真摯に向き合ってらっしゃる姿勢が感じられ、演じ手たちも考えさせられた。』

修養会で新人生へ語られるのにとどまらず、毎年の創立記念式典でも全校生徒に対して創立者の精神「建学の

精神」はもちろん、「聖霊」という特別な名前をいただいた本校の苦難に満ちた歴史が語り続けられています。こうした本校での自校史教育は、次のような宗教教育としての意義が込められています。

聖霊の歴史に多くの人々の関わりと援助があったからこそ、生徒一人ひとりが聖霊の生徒として、今も、大切に守られているということ。

仲間や先輩後輩、そして教職員との出会いが、聖霊の導きによる奇跡であり、感謝の気持ちを忘れないこと。

先月、聖霊三の丸時代から本校にお勤めいただいた元教員のおひとりの方が九十二歳で亡くなりました。この先生は、生徒の成績をコンピュータで処理するシステムを自作されるなど教務の面でご活躍いただきましたが、本校での国旗掲揚と国歌斉唱についてのお考えを、自らの戦争体験と共に職員会議の場で訥々と語られたことがあり、その精神は現在まで受け継がれております。教職員の世代交代が確実に進んできている今日、映像だけではなく、厳しい時代を乗り越えながら、伝統的な教育を守り続けてきている本校の歴史を、教職員に対しても語り続けることの重要性を感じます。

〈キャンパスの豊かな自然〉

瀬戸移転当時は丸裸だった聖霊の丘も半世紀近い時代を経て、今では十代の女子を育むに相応しい、豊かな自然に囲まれるキャンパスとなっています。



かつて聖路加国際病院の日野原先生に本校での講演をお願いした折り、聖霊の広大なキャンパスをご覧になられ、「この環境が人を育てますよ。」とおっしゃっていただきました。現在の、自然あふれる聖霊キャンパスの様子をご覧いただき、私からの報告を終えたいと思います。